

令和 6 年度  
学校自己評価報告書

新潟医療福祉カレッジ

令和 7 年 5 月 1 3 日

## 学校自己評価 評価項目

1. 教育理念・目標・人材育成像等

2. 学校運営

3. 教育活動

4. 学修成果

介護福祉科

介護福祉士基礎学科

医療秘書科、医療総合科

社会福祉科、社会福祉専攻科

ペットトリマー科

オンライン通信科、オンライン通信専攻科

5. 学生支援

6. 教育環境

7. 学生の受け入れ募集

8. 財務

9. 法令等の遵守

10. 社会貢献・地域貢献

## 1. 教育理念・目標・人材育成像等

### (1) 自己評価結果

| 評価項目                                         | 評価 |
|----------------------------------------------|----|
| 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか                      | 4  |
| 学校の理念・目的のもと、特色ある職業教育が行われているか                 | 4  |
| 社会経済のニーズ等を踏まえた人材育成の方針が定められているか               | 4  |
| 学校の理念・目的・育成人材像・特色などが、学生・保護者等に周知されているか        | 4  |
| 各学科の教育目標、人材育成像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか | 3  |

適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

### (2) 現状

- ・本校は、高齢化社会の福祉・医療に貢献できる介護福祉士の養成、および専門職業人として必要な専門的知識・技術及び態度を有する有為な人材を育成することを目的としており、これを学則で規定している。教育理念として、「目標に向かって継続的に努力する精神力と学校生活・学校行事を通じて社会性、積極性、協調性を身につけ、自らの行動に責任のとれる誠実な人材を養成する」ことを掲げており、学生や保護者にはこれを校訓及び人材育成像として示している。また、建学の精神で「豊かな教養を身につけた幅広い思考のできる人材の育成」を掲げ、資格や技術を持つことと同時に、社会的常識と基本マナーを備えた職業人の育成を目指すことを教育方針としており、これを学生の手引きに明記し、学生や保護者に示している。
- ・学校のテーマを「学校へ行くことが楽しくなる学校」とし、学生が毎日楽しく学校へ来ることができるように学生対応を行っている。教員間においても色々な価値が存在していたが、学校としての目指すべき方針を示すことで一丸となって取り組めるようになっていく。学生・保護者へもオープンキャンパスや学園だよりを通じて方針を伝えている。
- ・各職業に求められる人材を育てるべく、学科ごとに人材育成像（卒業生像）を設定するとともに教育方針を掲げ、指導にあたっている。切実な介護人材不足に対しては、外国人留学生の介護福祉士も養成することにより、そのニーズに応えている。

### (3) 今後の課題等

- ・特になし。学科ごとの人材育成像はデュプロマポリシーとして公開しているが、今後時代も大きく変わっていくことから、定期的に見直しをしていく必要がある。
- ・業界ニーズをキャッチする力がまだまだ不足しているところもある。業界団体との交流など今後も積極的に参加していく必要がある。

## 2. 学校運営

### (1) 自己評価結果

| 評価項目                                        | 評価 |
|---------------------------------------------|----|
| 目的等に沿った運営方針が策定されているか                        | 4  |
| 運営方針に沿った事業計画が策定されているか                       | 4  |
| 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか。また、有効に機能しているか | 4  |
| 人事、給与に関する規定等は整備されているか                       | 4  |
| 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか              | 4  |
| 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか             | 4  |
| 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか                    | 4  |
| 情報システム化等による業務の効率化が図られているか                   | 4  |

適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

### (2) 現状

- ・年度開始前に運営方針および事業計画を策定し、理事会にて報告、承認を得たうえで学校の運営を行っている。
- ・学内組織として学校運営会議などが学則に規定されており、この規定に基づき適切に学校を運営している。また、年度初めに校務分掌を作成し役割等を明確にしており、意思決定も含め有効に機能している。各学科においても年度当初に今年度の計画を立案し、計画が予定通りに実行できているかを学校運営会議で確認している。
- ・人事、給与に関しては、法人の就業規則や各種規定に定められており、法人として、定期的に見直しを行う組織体制も整っている。
- ・法人による財務等の組織整備、学校長による学校予算の作成と管理、学校運営会議等による意思決定の仕組み等が整備されている。
- ・教育活動等に関する情報公開は、ホームページや学園だより、学校案内パンフレットなどにより積極的に行っている。
- ・学内においても Google のシステムを導入し、一元管理と業務の効率化を行っている。

### (3) 今後の課題等

- ・特になし

### 3. 教育活動

#### (1) 自己評価結果

| 評価項目                                                        | 評価 |
|-------------------------------------------------------------|----|
| 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか                             | 4  |
| 育成人材像や業界のニーズを踏まえた、学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか     | 4  |
| 実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか                 | 3  |
| 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか           | 3  |
| 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか                        | 4  |
| 授業評価の実施・評価体制はあるか                                            | 4  |
| 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか                                 | 3  |
| 成績評価・単位認定・進級・卒業判定の基準は明確になっているか                              | 4  |
| 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか                     | 4  |
| 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか      | 4  |
| 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか | 4  |
| 職員の能力開発のための研修等が行われているか                                      | 4  |

適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

#### (2) 現状

- ・教育理念や各学科の育成人材像、業界のニーズ等を踏まえ、カリキュラムの見直しや到達目標の設定を行い、その習得に必要な学習時間を確保している。
- ・国家資格を始めとした高度な資格や検定の合格を目指しつつ、実践力を身につけるための演習や実技、実習、企業等と連携した授業などを効果的に行えるよう、工夫している。
- ・成績評価、単位認定、進級や卒業判定の基準等は、学則や学生の手引きに明記されており、その判定方法も学内で明確になっている。
- ・授業終了時に授業アンケートを実施し、半期に1度満足度調査を行っている。
- ・全教職員に対して年に2回以上の外部研修をルール化し、年に5回学内研修も計画している。
- ・各分野の専任教員に加え、実習先や就職先など業界関係者の方を特別講師や非常勤講師として招き、最新の知識や実践的な技能を身に付けるよう取り組んでいる。

#### (3) 今後の課題等

- ・関連分野企業等のアドバイスをもらいながらカリキュラムの見直しが不十分などところがある。企業や施設との連携や実際訪問する実践授業も増やしながらカリキュラムの参考にしているが、業界のニーズも変化しているため、柔軟に取り込んでいく必要がある。

#### 4. 学修成果（介護福祉科）

##### (1) 自己評価結果

| 評価項目                                 | 評価 |
|--------------------------------------|----|
| 就職率の向上が図られているか                       | 4  |
| 資格取得率の向上が図られているか                     | 4  |
| 退学率の低減が図られているか                       | 3  |
| 卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか           | 4  |
| 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか | 4  |

適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

##### (2) 現状

- ・就職に向けたガイダンスや研修行事、授業などを通して、就職課と連携しながら、学生の希望に応じた就職支援に取り組んでおり、介護現場に就職率 100%を達成することができた。
- ・介護福祉士国家試験は個別支援の成果もあり、100%合格することができた。
- ・休学1名、退学2名、転科2名であった。個別状況の内、4名が精神的な不安定と精神疾患が学業継続が難しい大きな要素となっている。個別的にサポートをおこなうが、学生だけでなく保護者も巻き込んだ、包括的なサポート体制を構築していく必要がある。
- ・連携施設授業の中で各施設のからの介護実践報告会を行い、介護の魅力について確認することができ、在校生たちにとって非常に有益であった。また、卒業生からオンラインでのレクリエーション活動の提案があり、一年生が実施した。卒業生と繋がることで、卒業後の将来像を感じることができた。
- ・在校中に、自己啓発を行う必要性や介護の最新技術、講習会やセミナーの存在を周知し、キャリア教育につなげていく必要があるので、令和7年度から授業内での活動を促していく。

##### (3) 今後の課題等

- ・介護職は、高齢化社会の進展に伴い、必要とされている職業である。介護職のやりがいや魅力を前面に出し、人の役に立ちたいと思っている方を一人でも多く、安心して働けるように支援できるような教育を目指していきたい。

#### 4. 学修成果（介護福祉士基礎学科）

##### (1) 自己評価結果

| 評価項目                                 | 評価 |
|--------------------------------------|----|
| 就職率の向上が図られているか                       | 4  |
| 資格取得率の向上が図られているか                     | 2  |
| 退学率の低減が図られているか                       | 2  |
| 卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか           | 4  |
| 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか | 4  |

適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

##### (2) 現状

- ・福祉施設でアルバイトをしている学生も多くいるため、キャリア教育や働くことの意識などは高まっている。また、介護に対する認識や理解度も高い。
- ・介護福祉士国家試験は、前年度に続き 10 名を超える合格者を出すことができたが、合格率は前年度よりも下がってしまった。2 年次の早い時期から国家試験問題を意識した授業を行うことで、合格率のさらなる向上を目指していきたい。
- ・学生数が増えたこともあり、複数の退学者、除籍者を出してしまった。要因は様々であるため、事例ごとの振り返りを行いながら対応策を考え、関係者で共有したうえで、一つ一つ実施していきたい。
- ・卒業後も新人研修を開催するなど卒業生のフォローをすると同時に、教育活動の改善も行っている。

##### (3) 今後の課題等

- ・学習面だけではなく、日本の風習や文化についても教育する必要がある。また、特に入学時は日本語レベルに差があるため、サポートが必要である。
- ・介護の仕事は留学生にとってイメージしにくい仕事であるため、入学前に介護の仕事はどのような内容なのかしっかりと伝えていくことが大切である。
- ・他学科との交流が多いとは言えない現状がある。新潟で暮らす外国人や留学生の数は増えているため、日本人と交流し、お互いに多様な価値観や文化を知ることが意義があると思う。カリキュラムや人数の関係もあるが、そのような機会の提供を模索していく必要がある。

#### 4. 学修成果（医療秘書科、医療総合科）

##### (1) 自己評価結果

| 評価項目                                 | 評価 |
|--------------------------------------|----|
| 就職率の向上が図られているか                       | 3  |
| 資格取得率の向上が図られているか                     | 4  |
| 退学率の低減が図られているか                       | 3  |
| 卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか           | 3  |
| 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか | 3  |

適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

##### (2) 現状

- ・学生の希望に合った職種や勤務地を斡旋することができたため、卒業式前に就職内定率 96.6%を達成した。未内定の学生は卒業後も引き続き就職活動を行い、4月に内定をいただいたため、就職率 100%を達成。
- ・医科医療事務管理士、調剤事務管理士、歯科医療事務管理士、医師事務作業補助認定試験、電子カルテ検定、ホスピタルコンシェルジュ検定の取得率は 100%である。診療報酬請求事務能力認定試験は、全国合格率 41.2%に対し、90.9%で、学科目標値の 90%以上は達することができた。
- ・2年生は休退学者が 0 名。1年生は退学者 1 名、転科 2 名。退学理由は、学習意欲の低下、転科の 2 名は精神的な体調不良により通学が困難となり、オンライン通信科へ転科することになった。
- ・在校生に関しては、10 月以降、インターンシップ先のヒアリングを通じて、社会的活動や評価を概ね把握できている。  
卒業生に関しては、4 月に実施している卒業生による就職ガイダンスの際に、実際の現場の声や、イフでの教育について話す場を設け、改善を図っている。

##### (3) 今後の課題等

- ・医療事務系の検定協会も方向性が変わり、検定が廃止されたり、試験概要が変わったりしてきている。それに合わせて授業も、より現場に直結するような内容とし、即戦力として働けるよう改善を図る。
- ・休退学者を 0 名にするために、定期的な 1on1 で学生との関係性を築く。1 年生は早い段階で心境の変化等、些細なことも見落とさないよう、細心の注意を払う。2 年生はインターン中に辞退することがないように、月 1 回の 1on1 は必須とする。

#### 4. 学修成果（社会福祉科、社会福祉専攻科）

##### (1) 自己評価結果

| 評価項目                                 | 評価 |
|--------------------------------------|----|
| 就職率の向上が図られているか                       | 4  |
| 資格取得率の向上が図られているか                     | 3  |
| 退学率の低減が図られているか                       | 3  |
| 卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか           | 4  |
| 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか | 3  |

適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

##### (2) 現状

- ・クラス担任と就職課が連携し、学生の希望に応じた就職に向け取り組んでおり、当該年度を含めた直近3年間の就職率は100%である。
- ・社会福祉士国家試験の現役合格に向け、受験対策指導を体系立てて実施している。当該年度の合格率は66.6%であり、全国平均56.3%を超える成績を残すことができた。
- ・クラス担任を中心に、学生が教員と話しやすい環境をつくっており、学生の抱えている課題や心の悩みに応じた支援を行っている。当該年度の延べ人数に対する退学率は10.7%である。
- ・現場実習の巡回指導などで施設の指導者から在校生の実習の様子や卒業生の働きぶりを聞く機会を得ている。
- ・卒業生とは在校時の担任を中心に良好な関係性を維持し、情報交換をしている。

##### (3) 今後の課題等

- ・令和6年度より社会福祉士国家試験の構成が新カリキュラム対応となっており、出題傾向も大きく変わったため、前年度の試験内容の更なる研究・対策に取り組む必要がある。
- ・退学および転科の学生数が増加傾向にある。学生の観察や変調への早期の気づき、迅速な個別支援のできる体制づくりが急務である。
- ・卒業生の活動についての情報収集が、在校時の担任に依存している。また、卒業生のキャリア形成に関わるなどの活動が十分とはいえない。そのため、卒業後は卒業生と学科との関係性を構築し、情報交換や相談会の開催など、学科としての体制を整える必要がある。



#### 4. 学修成果（ペットトリマー科）

##### (1) 自己評価結果

| 評価項目                                 | 評価 |
|--------------------------------------|----|
| 就職率の向上が図られているか                       | —  |
| 資格取得率の向上が図られているか                     | 4  |
| 退学率の低減が図られているか                       | 4  |
| 卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか           | 2  |
| 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか | —  |

適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

##### (2) 現状

- ・全日本動物専門教育協会公認トリマー初級の合格率は 100%だった。（全国平均 85.6%）。少人数制の強みを活かし、教員とマンツーマン指導ができる環境のもと、一人ひとり着実に技術を身に付けた結果である。
- ・退学率 0%。一時期、退学をほのめかしている学生もいたが、月 1 回の 1on1 や、定期的な声かけ、家族への説明等行ったことにより、退学せずに進級することとなった。
- ・在校生は校外学習や実習等の機会をまだ設けていないため、評価できなかった
- ・令和 6 年度新設学科のため、就職率や卒業後の評価は対象外とする

##### (3) 今後の課題等

- ・初めての就職活動等控えているため、本人の希望職種や希望勤務地等を考慮しながら、斡旋していきたい。
- ・2 年時にはインターンシップが始まり、施設見学や施設実習が始まるので、社会人としてのマナーや礼節、実習に対する心構え等を指導する。
- ・公認トリマー中級を目指すため、今まで以上の技術を身に付けるため、細やかな指導が必要となる。

#### 4. 学修成果（オンライン通信科、オンライン通信専攻科）

##### （1）自己評価結果

| 評価項目                                 | 評価 |
|--------------------------------------|----|
| 就職率の向上が図られているか                       | 3  |
| 資格取得率の向上が図られているか                     | 4  |
| 退学率の低減が図られているか                       | 3  |
| 卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか           | 2  |
| 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか | 3  |

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

##### （2）現状

- ・学科開設から2年目、初年度と比較して、さまざまな資格取得を目指せる体制を構築し、学生自身が学びたい科目を選択できるように改善した。その結果、資格取得率の向上にも繋がっている。
- ・校内の他学科で通学の継続が困難になった学生を受け入れるための体制を整備し、転科までの流れがスムーズになった。
- ・通信制のデメリットである「入学はしたが学習が進まない」ということにならないように、学生一人ひとりの希望を考慮した定期的な1 on 1を実施したことにより、モチベーションの維持と計画的な学習の継続に効果があった。
- ・在校生が増えた関係もあるが、退学率は、昨年度の33.3%からに8.8%に改善した。しかし、退学者ゼロに向けた体制整備は今後も継続する必要がある。
- ・初めての卒業生は就職率100%となったが、自ら就職対象外になることを選択した者もいるため、在校生の就職活動や卒業後の支援の必要性も大きい。

##### （3）今後の課題等

- ・学科の特性上、今後さらに多くの複雑な課題を抱えた学生が入学することが予想される。学生個々の課題やニーズに応えられるよう、選択科目の幅を拡大し、より個別化したアプローチを展開していくことで、退学者ゼロを目指していく。
- ・卒業後の進路が定まらず、引きこもり等になってしまうことを避けるため、社会的活動やキャリア形成などの科目を学生が自主的に選択するように導き、社会との接点を持つことへのマイナスのイメージを軽減できるようにする。また、必要に応じて就労移行支援等の外部機関との連携により、無理のない就職支援、卒業後のサポートを継続できる体制を構築していく。

## 5. 学生支援

### (1) 自己評価結果

| 評価項目                      | 評価 |
|---------------------------|----|
| 進路・就職に関する支援体制は整備されているか    | 4  |
| 学生相談に関する体制は整備されているか       | 4  |
| 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか   | 4  |
| 学生の健康管理を担う組織体制はあるか        | 4  |
| 課外活動に対する支援体制は整備されているか     | 4  |
| 学生の生活環境への支援は行われているか       | 4  |
| 保護者と適切に連携しているか            | 4  |
| 卒業生への支援体制はあるか             | 3  |
| 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか | 4  |

適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

### (2) 現状

- ・就職担当とクラス担任が連携し、キャリア教育を踏まえた授業や就職支援活動を計画的に行っている。卒業生が過去に受験した企業等の情報の閲覧や面接練習・面接指導については、登校時のみならず在宅時でもオンラインで閲覧や申請が可能な状態であり、就職活動を行う学生にとって必要な支援体制が整っている。また、毎年継続的に採用いただいている企業との関係を継続することにより、学生の受験機会の増加および企業の人材不足への対応に繋がっていると考える。
- ・全学科、年間を通じて学生とクラス担任が定期的に面談をする機会を設けたことにより、学生と教員の関係性向上や日常的な相談事に耳を傾ける体制ができた。学生の課題を担任だけで解決するのではなく、内容によっては学科全体で共有し、チームとして対応する体制を整えている。
- ・ほぼ全ての学生を対象に学校独自の学費支援制度を設けて、経済的支援を行った。また、必要に応じて学費等の分納や延納の相談にも応じた。
- ・ボランティア活動の斡旋や、サークル活動費の補助などにより、課外活動を行う学生を支援している。
- ・学校や学科の方針をご理解いただくとともに、学校生活や学生の活動の様子などを共有する機会として新入生の保護者を対象とした個別面談を実施した。また、課題や悩み等を抱えている学生については、随時担任より保護者へ連絡をとり、協力を得ながら学生を支援していた。
- ・社会人教育のニーズにも対応できる学科が新設されたことで、リカレント教育を希望する社会人の教育を支援しやすい環境が整った。

### (3) 今後の課題等

- ・卒業生に限定した支援については、個別支援にとどまっている。全体として支援ができる方法については、まだまだ検討が必要。

## 6. 教育環境

### (1) 自己評価結果

| 評価項目                                    | 評価 |
|-----------------------------------------|----|
| 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか        | 4  |
| 学内外の実習施設、インターンシップの場等について十分な教育体制を整備しているか | 4  |
| 防災に対する体制は整備されているか                       | 4  |

適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

### (2) 現状

- ・介護実習室、入浴実習室、家政学実習室、医療事務実習室、トリマー実習室、パソコン実習室、図書室、多目的演習室など、教育を行う上で十分な施設、設備を備えており、オンライン授業を行うための高速ネットワーク環境も整っている。
- ・学生の出身地域や希望も考慮し、多くの福祉施設や病院などにご協力いただきながら、連携してインターンシップや実習等を行っている。
- ・水、非常トイレなど各種防災設備を設置するとともに、避難訓練・消火訓練を実施し、教職員には防災マニュアルにて、災害時の行動指針を示している。また、新入職員にはAEDの研修を行い、いざというときに備えている。

### (3) 今後の課題等

特になし

## 7. 学生の受け入れ・募集

### (1) 自己評価結果

| 評価項目                        | 評価 |
|-----------------------------|----|
| 学生募集活動は適切に行われているか           | 4  |
| 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか | 4  |
| 学納金は妥当なものとなっているか            | 4  |

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

### (2) 現状

- ・学校の理念や教育を知ってもらうための学生募集活動として、パンフレット、募集要項を毎年作成し、入学希望者への配布、説明を行っている。また県内外の高校等訪問により高校教員に対しても理解を深めてもらっている。さらに、毎月オープンキャンパスを開催しており、学校・学科説明・体験実習・募集要項説明等を実施している。また、LINE をコミュニケーションツールとして活用し、来校が難しい場合においても疑問や不安についての問合せができる環境を整え、理念や教育を理解してもらったうえで入学を決めてもらっている。
- ・通信制高校の生徒数が増えていることを踏まえて、通信制高校への訪問を積極的に行い、新たなマーケットの開拓を進めている。
- ・教育成果である各種資格検定取得状況や進路状況は、パンフレットや Web サイトで公開するとともに、オープンキャンパスや保護者説明会、高校訪問時の説明等で正確に伝えている。
- ・学納金は物価の変動状況と本校の収支計画を勘案し、理事会で決定している。

### (3) 今後の課題等

- ・福祉や医療事務分野は希望者が減少している分野であり、大学進学率も年々増加していることから高校生をオープンキャンパスに動員することが今後の課題と言える。
- ・オンライン通信科を設置し、多様な学び方や高等教育の進学を諦めていた方に対してアプローチを進めていきたいが、認知度が低いいため社会ニーズに応えられていない。

## 8. 財務

### (1) 自己評価結果

| 評価項目                     | 評価 |
|--------------------------|----|
| 中長期的に学校の財務基盤は安定していると言えるか | 4  |
| 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | 4  |
| 財務について会計監査が適切に行われているか    | 4  |
| 財務情報公開の体制整備はできているか       | 4  |

適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

### (2) 現状

- ・健全な財務状況となるよう中長期の収支計画を立てており、適切に執行されている。
- ・予算、収支計画は、事業計画に基づき作成された後、理事会及び評議員会の承認を得て予算の執行及び運用がなされている。また、月次単位で予算執行状況の確認を行っている。
- ・法人として、公認会計士による会計監査が1年を通して適切に実施されている。
- ・財産目録、貸借対照表、収支計算書及び事業報告書等の財務情報について、ホームページにて公開し、閲覧できるようにしている。

### (3) 今後の課題

- ・安定的な入学生の確保に力を入れ、健全な財政基盤の継続に取り組んでいく。18歳人口はこの先も減少傾向が続くため、社会人・留学生など幅広く学びの機会を創出していく必要がある。

## 9. 法令等の遵守

### (1) 自己評価結果

| 評価項目                          | 評価 |
|-------------------------------|----|
| 法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | 4  |
| 個人情報に対し、その保護のための対策がとれているか     | 4  |
| 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか         | 4  |
| 自己評価結果を公開しているか                | 4  |

適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

### (2) 現状

- ・学校教育法などに定められている法令、設置基準の遵守について適切に行っている。また、申請や届出が必要な事項に関しては、遅延なく国や県など所轄官庁に提出している。
- ・個人情報の管理については、全教職員に周知徹底し厳格に行っており、学生などの個人情報を利用する場合には使用目的を明確に伝え、承諾を得たうえで取り扱っている。
- ・自己評価は毎年度行なっているおり、その結果をホームページで公開している。

### (3) 今後の課題等

- ・特に問題無し。適切な対応を継続していく。

## 10. 社会貢献・地域貢献

### (1) 自己評価結果

| 評価項目                                        | 評価 |
|---------------------------------------------|----|
| 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか             | 4  |
| 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか                      | 3  |
| 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか | 3  |

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

### (2) 現状

- ・中学校の「総合的な学習の時間」等を活用した上級学校訪問を積極的に受け入れ、キャリア教育や職業観の育成等に協力している。
- ・こども食堂を年12回開催し、地域の方々に喜ばれている。
- ・引き続き、新潟県立新潟テクノスクールより、公共職業訓練を希望があれば受け入れていく。。

### (3) 今後の課題等

- ・ボランティアは依頼があったものについて担当者を決めて全体周知を行っているが、コロナ等の関係で依頼が減少している。また奨励している状況でもないので、奨励できるよう学内の体制を整える必要がある。
- ・こども食堂を通して地域とのかかわりが増えているが、まだまだ断片的なかわりのため徐々に増やしていく必要がある。